

第 29 回富士山世界文化遺産協議会作業部会（令和 7 年 12 月 12 日開催）における主な意見に関する検討状況等

	意 見	検討状況等
1	閉山期間中に登山する人がおり、課題である。そのあたりも計画に記載すべきではないか。	課題として認識している。 保存管理計画に位置づけるべきか否かを含め、引き続き検討する。
2	「アトリビュート」や「インタープリテーション」など聞き慣れない言葉があるので、日本語表記を検討してほしい。	学術委員会でも共有し、日本語訳を記載する方向で検討している。
3	吉田口でも歴史的な建物が荒廃している。行動計画の策定と実施を明確化してほしい。	学術委員会でも共有し、こうした視点を踏まえ、必要な見直しは実施する。 一方で、本計画は「世界文化遺産富士山」の保存・活用等に関する基本方針・方法を定めるものであるため、すべての具体的事象に対応することは難しい。問題に対処する際の大方針、共通認識と捉え、行動計画の策定や作業を行う際の基礎としてもらいたい。 ※令和6年度に富士吉田市にて活動計画の策定あり。（「富士山吉田口登山道保存と活用のための活動計画」）
4	五合目の来訪者数を7月・8月に限って観察するのはなぜか。年間で把握した方が良いのではないか。	来訪者管理戦略において「上方（五合目以上）の登山道」を中心とした来訪者管理の必要性が述べられていることから、登山者数の動向を観察するため、開山期間（7月・8月）を調査期間として設定している。
5	永久凍土の調査を観察指標に加えるかどうかの検討状況は。	学術委員会でも共有し、現状のモニタリング項目（気温や植生、森林限界の変動等）は実施しつつ、永久凍土の状況や昆虫の影響について、指標として加えるべきか引き続き検討する。
6	気温の上昇により熱帯性の昆虫が発生するが、その影響は調べないのか。	